

社会科学学習指導案

指導者 木村和久

1 日時 令和元年10月8日(火) 5校時

2 学級 3年5組 男子16名 女子14名 合計30名 東校舎2階3年5組教室

3 主題 単元名 個人の尊重と日本国憲法 2節 「人権と共生社会」
中心学習材 「共生社会と私たち」(東京書籍「新しい社会 公民」)

4 主題について

2節では、日本国憲法の基本原理である「基本的人権の尊重」について、日本国憲法の規定を中心に取り上げ、人権が身近な生活に密接に関わっていることや、人権をめぐる日本の現状について実感し気付かせることをめざしている。特に、本時で取り上げる平等権については、「共生社会」「高齢者の人権と生活保護」「障がいのある方と支援の在り方」にふれ、共に生きる社会を形成し公民としての資質を備えた人格者の育成をめざす指導に効果的な単元といえる。

生徒は、これまで日本国憲法の基本原理を中心に、身近な生活上にある課題に気付くことや改善に向けて、資料を読み取ったり、話し合いを通して意見を出し合ったりしながら自分の考えを表現する活動を行ってきた。その結果、日本や世界のできごとについての話題について知っているという反応を示す生徒が増えてきている。また、小グループの交流を通してグループ内の交流活動がスムーズになり、自分の意見を発表できる雰囲気も育ってきたように見える。

そこで、身近な資料を用いたり、体験的な活動を取り入れたり、生徒の興味関心を高める工夫を行ったりしながら小グループまたは全体の交流場面を通して、意欲がわからない生徒などへの働きかけを行い、全体の課題解決に向けての意識向上を図りたい。そしてこれらの学習活動を通して、生徒が今後起こりうる様々な問題に対する解決や社会参画に向けた意識づくりの基礎を育成していきたい。

5 本時の達成目標

障がいがある人たちを含めた差別問題とその解決への取組について、また「共生社会」の実現について関心を高め、具体的な事例や資料・模擬体験を通して、社会の形成者としての立場から考え、話し合ったり発表し合ったり、社会参画やノーマライゼーション実現に向けた自分なりの考えをもち、記述することができる。

6 評価場面での生徒の記述例

【思考・判断・表現】

おおむね満足 B	十分満足 A
段差を無くしたり、スロープをつくったりするなど障がいのある人たちが行動する上での障壁を取り除くことが大切である。また、私たち自身も正しい支援の仕方を理解することが大切である。	段差を無くしたり、スロープをつくったりするなど障がいのある人たちが行動する上での障壁を取り除くことが大切である。また、私たち自身も支援の仕方を身に付け積極的に行動すること、障害のある人たちが生活しやすく活躍できる社会を共にめざすことが大切である。

7 振り返りの場面での生徒の記述例

障がいがある人たちがどんな不便や危険を感じながら生活しているかが少しでも理解できた。さまざまな危険を察知し正しい方法で支援や介助することが大切だとわかった。相手の立場を理解し、積極的な行動を取ることが重要だと感じた。安心安全な施設や設備を整えることや、私たち自身の支援する態度や気持ちもつくっていく必要がある、困っている人への支援を積極的に行っていこうと思った。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 評価の観点・方法 ◆教材・教具等
導入 5分	1 前時に学習した内容を確認する。 ・平等権・全国水平社・アイヌ文化振興法・障害者支援法・男女雇用機会均等法・男女共同参画社会均等法 2 本時のキーワード等を想像する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【主体的】 自分から積極的に発想を持ち、発言することを通して課題意識をもつ。 </div> 3 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> バリアフリーをめざし、わたしたちにできることは何だろうか。 </div>	1 前時の学習内容を短時間で復習する。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">◆語句カード</div> 2 不自由な生活・行動の制限があることを連想し、発表する。 ・車イス、点字ブロックや点字説明の写真から生活の困難さを連想させる。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">◆黒板提示用資料、提示用キーワード</div> <div style="text-align: right;">◆学習シート</div>
展開 40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 第1ステップ </div> 4 課題に対する予想を立て、発表する。(個人) ・階段や段差をなくす 点字ブロック、スロープ エレベーターの設置通路を広くするなど施設設備の改善 ・生活上でのさまざまな困難や障壁を取り除くこと <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 第2ステップ </div> 5 ①キャップハンディ体験について説明を受け、体験活動を行う。(ペアグループ) ②体験活動の結果をまとめる。(個人・ペアグループ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ラストステップ </div> 6 体験活動で、学んだこと感じたことを小グループで交流し記述する。(ペア・小グループ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【対話】 小グループ(4人)ごとに個人・ペアの意見を交流し、グループとしてのまとめを発表する。 </div> 7 本時のまとめをする。(個人)	4 バリアフリーの意味を確認し、予想を立てさせる。 ・物理的な障壁だけでなく、精神的な内容も含まれることを認識させる <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">◆学習シート</div> 5 ①正しい支援・介助の方法を理解させる。 安全配慮するとともに、支援が必要な方の立場より真剣に動く。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">◆白丈 アイマスク 高齢者疑似体験セット</div> ②体験活動終了後に体験の評価や反省をまとめる。 <div style="text-align: right;">◆学習シート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 5 【思考・判断・表現】 課題に対する自分の考えを、自分の言葉で文章にまとめることができる。(学習シート) </div> A:課題に対する自分の考えを、根拠を明らかにしながら自分の言葉で文章にまとめている。 C:課題に対する自分の立場を明らかにさせ、もっともだと思ったり心に残ったりした他者の考えを参考にさせる。 6 支援者・介助が必要な方の双方の立場に立ち、どのような支援ができるか、施設や設備をどう整えるのかを交流させ、グループ発表させる。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">◆学習シート ホワイトボード 水性ペン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 6 【知識・理解】 安心・安全で適切な介助方法について理解し、実践したことを記述している。(学習シート) </div> 7 課題に対するまとめを行い、数名に発表させる。
終末 5分	8 学習活動を振り返る。(個人)	8 【リフレクション】 本時の学習で気付いたことや他の人の意見から参考になったこと、その他新たに浮かんだ疑問点や今後生かせそうなことを振り返らせる。 <div style="text-align: right;">◆学習シート</div>

9 指導と評価の計画

3 年 社会		単元名 人権と共生社会 (中心学習材名「共生社会」と私たち)	総時間 4時間扱い
学習指導要領の指導事項		単元の目標	
<p>(知識・理解) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主義を担う公民として必要な資質を身に付けることができる。</p> <p>(関心・意欲・態度) (思考・判断・表現) (技能) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度をもつことができる。</p>		<p>個人を尊重し、共生社会を実現するために自分たちにできることについて考え、社会の形成者として自ら進んで関わろうとしている。</p> <p>個人の尊重や公共の福祉などについて多様な手法を使って話し合いや意見交換を行わせ、多面的・多角的に考察させることを通して、より深い人権意識を持つことができる。</p> <p>日本国憲法に定められている基本的人権の種類やその内容について、具体的な事例を通じて理解できる。</p> <p>読み物資料や新聞記事などを活用し、部落差別や民族差別、女性や障がいのある人たちなどに対する差別問題の現状とその解決に向けた取り組みについて理解できる。</p>	
時	主な学習活動	おおむね満足 (B)	
1	基本的人権の考え方や個人の尊重の原理に関心を持ち、人権の保障が社会的弱者を差別などから救済するよりどころとなることを理解する。	<p>関 具体的な事例を通して考え、自分なりの意見をもち発表している。</p> <p>知 基本的人権の考え方や個人の尊重の原理などを理解し説明している。</p>	
2	差別問題とその解決に向けて具体的な事例を通して関心を高め、差別をなくすために自分ができることを考え、わかりやすく表現する。	<p>関 差別問題に関心をもち意欲的に追究している。</p> <p>思 差別について、話し合いを通して考察し、自分でできることを考え、発表している。</p>	
3 (本時)	具体的な資料や模擬体験を通して共生社会について関心を高め、その実現について、発表したり、話し合ったりしながら自分の考えを記述する。	<p>関 視力の弱い人に対する介助方法について関心をもち取り組んでいる。</p> <p>思 共生社会の実現について話し合いなどを基に自分の考えを表現している。</p>	
4	自由の多様な考え方について多面的・多角的に考察し、具体的な事例を通して理解する。	<p>思 ランキング活動を通し、自由についての考察の結果を表現している。</p> <p>知 自由権にはどのようなものがあるのか理解し、その知識を身に付けている。</p>	